



天文の、天文による、 天文のための国際交流と男女交際

佐藤明達

1. はじめに

天文学は隕石などを除くと研究対象が地球外にあるため、勝れて国際的な学問である。人は人種や国籍に関係なく、協力して宇宙を探究しつつある。また宇宙に興味を持ち、星を楽しむ天文愛好家は世界中に分布している。従って天文は地球上の人と人とを結びつける有力な道具となる。

2. 国際交流

そこでまず、私達は隣国の韓国・中国の人達と、天文を介した交流を推進したい。公用語は英語とする。インターネットで連絡を取り合い、皆既日食や流星雨の共同観測を実施しよう。同じ場所で観測すれば、観測後の懇親会は大いに盛り上がるだろう。英会話の実践場であるが、親密になればお互いの言葉も通じるようになる。望遠鏡やカメラの披露、天文図書・雑誌の進呈も相互に行なわれるだろう。後日、観測結果をまとめて互いに交換するといひ。

但し政治的な話題はタブーである。誘いに乗ってはならない。あくまでも天文で親睦を深めたい。韓国・中国とは政治的にギクシャクしているが、それを改善するためにも天文を介した草の根の文化交流を進めたい。私達は「素敵な宇宙船地球号」の crew (乗組員) なのだ。仲良く国境のない天界の神秘を観測しよう。

3. 男女交際

我が国の合計特殊出生率は昨年度遂に 1.25 となって、史上最低を記録した。これは高齢者の増加と相まって、日本社会の深刻な

問題となっている。出生率が下がったのは、結婚年齢の上昇(晩婚化)と非婚が進んだのが一因である。そこで男女交際の機会をふやす必要がある。それには天文が大いに役立つ。プラネタリウム観賞や観望会、日食遠征などでの語らいから若い男女が親密になり、意気統合すればやがて結婚に至るだろう。これらは良きパートナーを見付ける格好の場である。結婚後も天文に関心を持ち続けてくれれば一層良い。こうしたカップルは貴方の周りにも何人かいるはずだ。男女がお互いに会話しやすい雰囲気積極的に作ってやろう。思わぬ by-product (副産物) も期待される。民間の結婚相談所などと連携すれば、ノウハウの知識も得られ、企画は効率的に進むだろう。こうしてカップルがふえれば国策に沿う事業となる。いろいろトラブル(セクハラなど)も発生するだろうが、まずやってみることだ。

4. おわりに

国際交流も男女交際も、小規模で長続きしないようだ。研究会はこれらを積極的に取り上げ、永続的な事業として推進したいものだ。